

2019年3月期 決算説明会

(2018年4月1日～2019年3月31日)



2019年 5月14日

- I. 2019年3月期 連結決算概要
- II. 今後の事業展開
- III. 2020年3月期 連結業績見通し

- I. 2019年3月期 連結決算概要
- II. 今後の事業展開
- III. 2020年3月期 連結業績見通し

2019年3月期 連結決算ハイライト①

(百万円)	2019年3月期	2018年3月期	対前期増減率	業績予想値 (2018/11/9)
売上高	15,502	13,547	+ 14.4%	14,850
精機部門	8,729	7,686	+ 13.6%	8,350
光製品部門	6,773	5,860	+ 15.6%	6,500
営業利益	1,619	930	+ 73.9%	1,350
経常利益	1,754	1,053	+ 66.5%	1,450
当期純利益	1,232	914	+ 34.8%	1,000

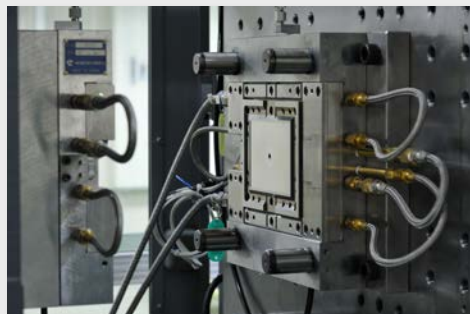
2019年3月期 連結決算ハイライト②

(百万円)	2019年3月期	2018年3月期	対前期増減率
受注高	16,191	13,663	+18.5%
受注残	2,449	1,759	+39.2%
設備投資	1,238	1,171	+5.7%
減価償却費	1,390	1,238	+12.3%
研究開発費	450	429	+5.0%

精機部門／主要製品・主要技術

◆ 金型

アーカイブディスク用金型
 その他 精密金型



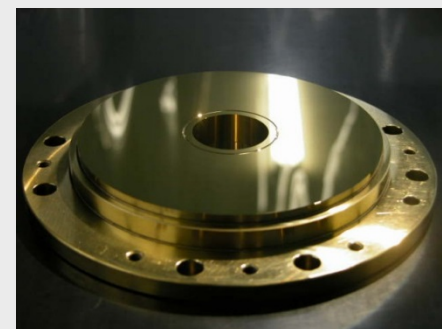
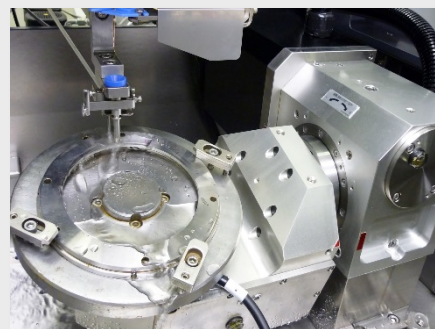
◆ 成形品

車載用インサート成形部品
 金属プレス成形部品
 樹脂射出成形部品 等



◆ その他

精密金属加工部品 等

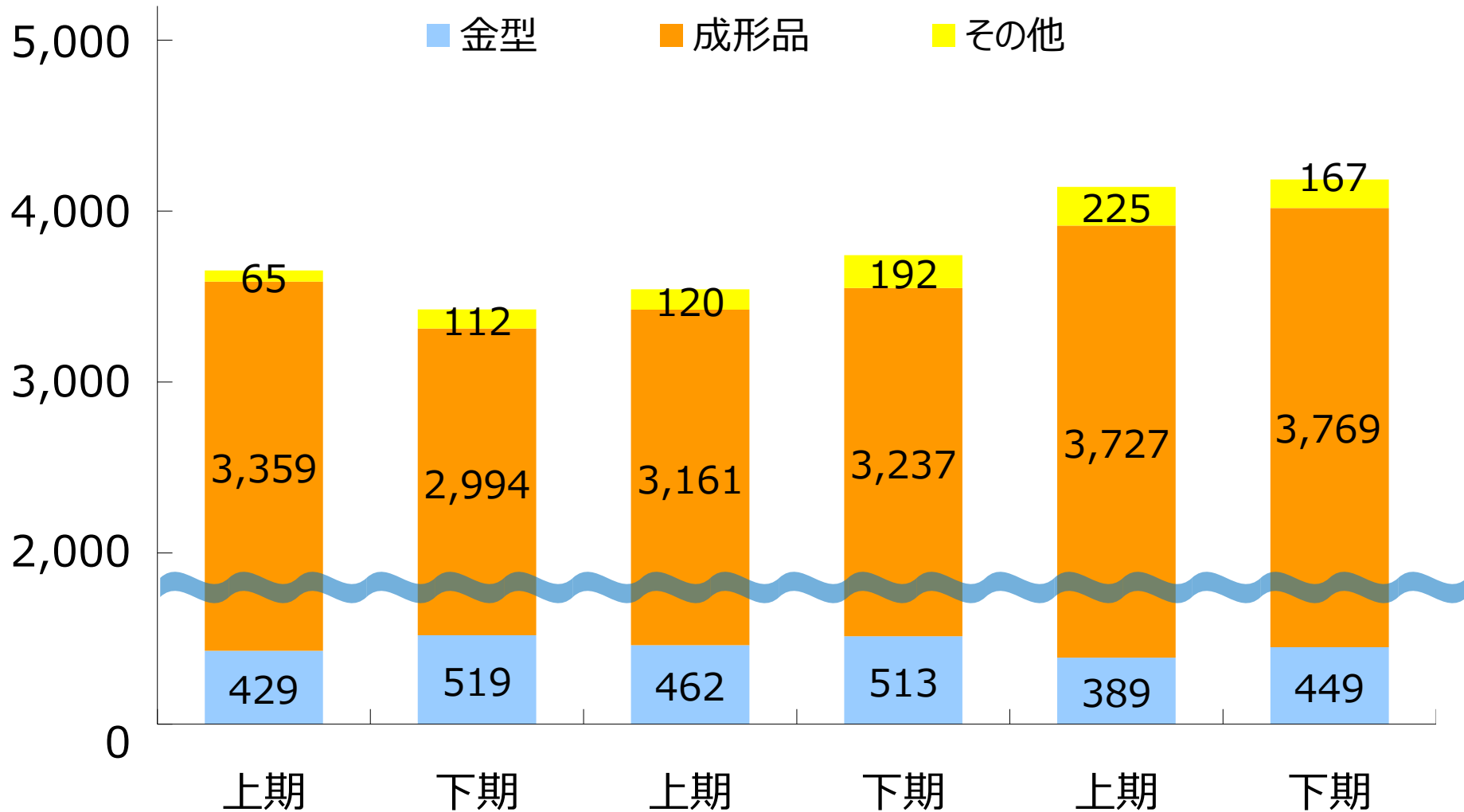


精機部門／セグメント業績

(百万円)	2019年3月期	2018年3月期	対前期増減率
売上高	8,729	7,686	+ 13.6%
営業費用	7,976	7,193	+ 10.9%
営業利益	753	493	+ 52.5%
営業利益率	8.6%	6.4%	—

精機部門／製品別売上高

百万円



2017年3月期

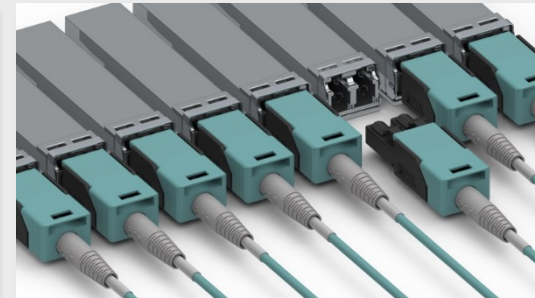
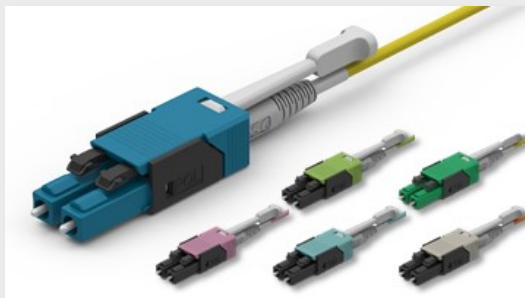
2018年3月期

2019年3月期

光製品部門／主要製品・主要技術

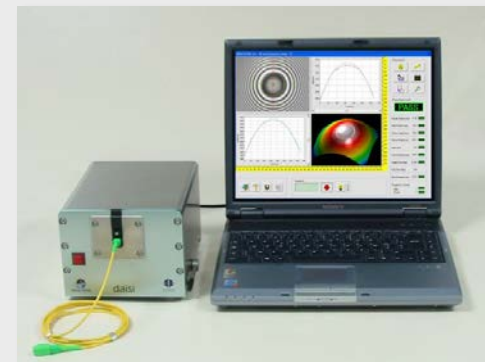
◆ 光通信用部品

光コネクタ
フェルール 等



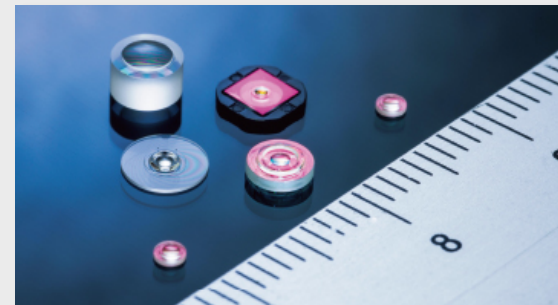
◆ 製造機器・装置

光コネクタ研磨機
光コネクタ端面検査装置
光電界センサー 等



◆ その他

超小型レンズ 等

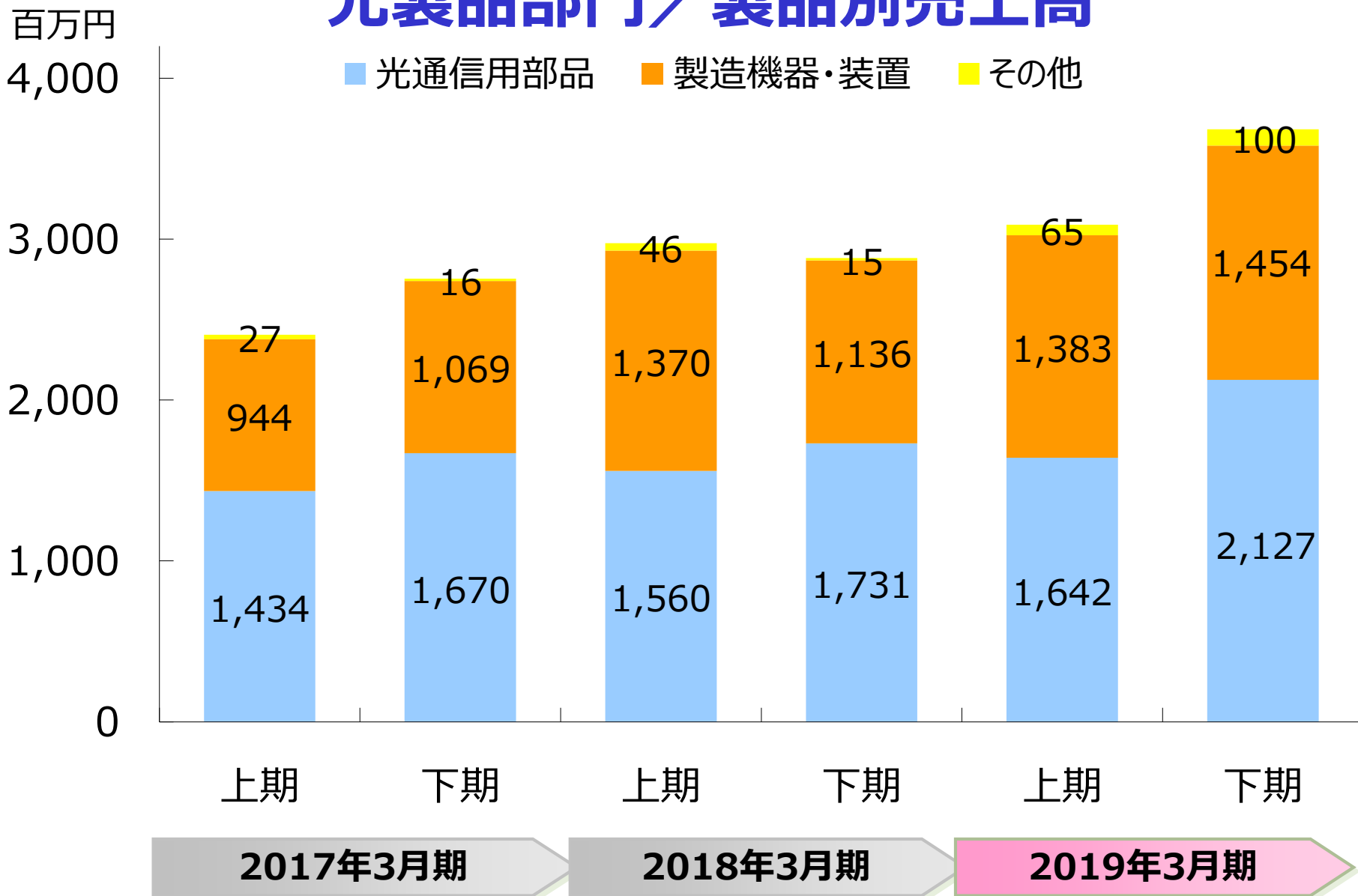


光製品部門／セグメント業績

(百万円)	2019年3月期	2018年3月期	対前期増減率
売上高	6,773	5,860	+ 15.6%
営業費用	5,908	5,424	+ 8.9%
営業利益	865	436	+ 98.2%
営業利益率	12.8%	7.4%	—

光製品部門／製品別売上高

■ 光通信用部品 ■ 製造機器・装置 ■ その他



連結貸借対照表

(百万円)

<資産の部>	2019年3月期	2018年3月期	増減額
流動資産	17,544	15,859	+ 1,684
固定資産	10,141	10,337	△195
資産合計	27,686	26,197	+ 1,488
<負債及び純資産の部>			
流動負債	3,378	2,688	+ 690
固定負債	1,102	1,024	+ 77
純資産	23,204	22,484	+ 720
負債純資産合計	27,686	26,197	+ 1,488

連結キャッシュ・フロー計算書

(百万円)	2019年3月期	2018年3月期
営業キャッシュ・フロー	2,393	2,086
投資キャッシュ・フロー	△1,526	△2,706
財務キャッシュ・フロー	△254	△185
現金増加額	510	△761
期首残高	3,305	4,066
期末残高	3,816	3,305

- I. 2019年3月期 連結決算概要
- II. 今後の事業展開**
- III. 2020年3月期 連結業績見通し

中期経営計画 マスタープラン2016

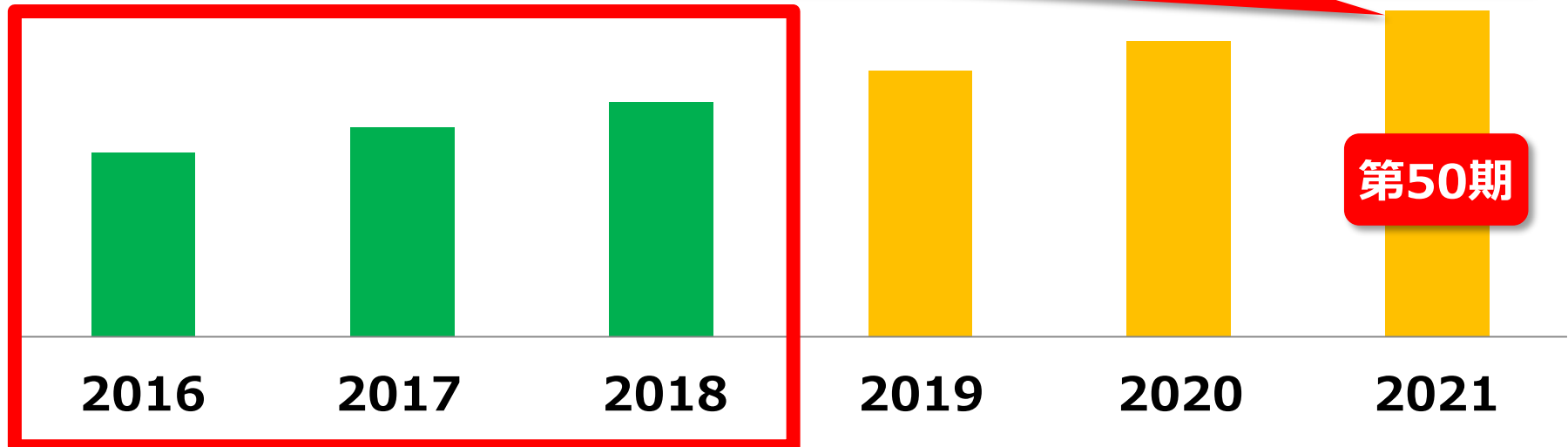
- 第50期となる2021年度を最終年度とする6ヶ年中期計画

マスタープラン2016
2016年度～2021年度

第1フェーズ
2016～2018

第2フェーズ
2019～2021

連結売上高 250億円 連結営業利益 25億円以上



第1フェーズの基本戦略

1 既存事業の収益力強化

- 販売力の強化
- 価格競争力の強化
- 新製品・新技術開発の加速

2 事業ポートフォリオの最適化

- 次世代事業の創出
- 不採算事業の合理化

3 経営基盤の強化

- 人財力の強化
- 成長への投資
- 経営管理の強化

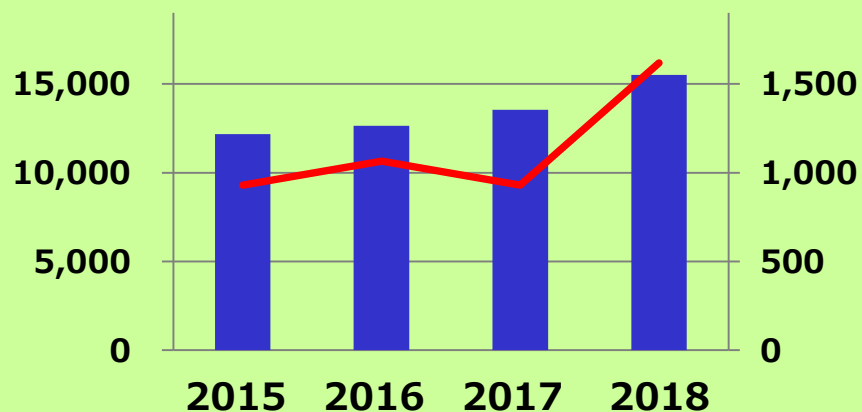
第1フェーズのアクション

基本戦略	第1フェーズ アクション
1. 既存事業の収益力強化	<ul style="list-style-type: none"> ・千歳工場の新設、車載用成形品の生産移管 ・新型 光コネクタ研磨機（SFP-560A）の上市 ・データセンター向け 光コネクタの拡販（多心対応光コネクタ） ・小型樹脂レンズの量産方法の確立（LIMレンズ、ウェハレベルレンズ） ・自動化（FA）技術の向上、重要部品の社内内製化
2. 事業ポートフォリオの最適化	<ul style="list-style-type: none"> ・光通信用部品の収益改善 ⇒「成長期待事業」から「成長牽引事業」へ ・DATA PIXEL社の連結子会社化 ・中国 浙江精工光電科技有限公司への出資 ・マイルストーン社の閉鎖
3. 経営基盤の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・監査等委員会設置会社へ移行（経営監督機能の強化） ・執行役員制度の導入（意思決定の迅速化） ・業績連動インセンティブ制度の導入 ・「働き方改革」の推進による業務効率の向上（本社） ・BCPの見直しによる事業継続力の向上（本社）

第1フェーズの業績推移

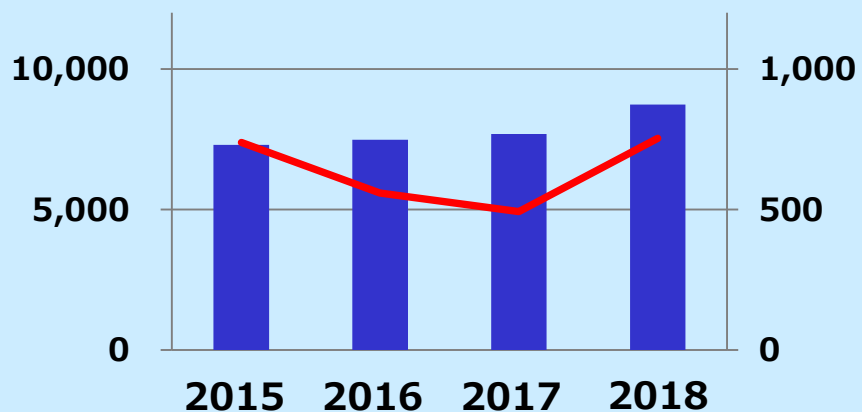
棒グラフ ⇒ 売上高：左軸
折れ線グラフ ⇒ 営業利益：右軸

全社合計 (百万円)

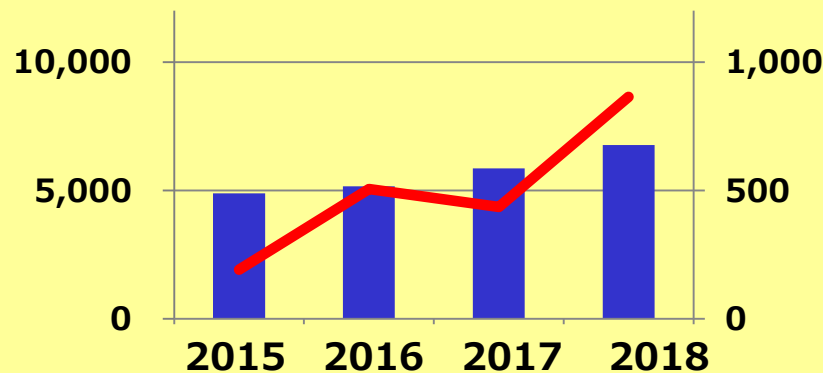


- 売上高は **27%**増加
- 営業利益は **1.7倍**に
- 営業利益率は **10%台**に

精機事業 (百万円)



光製品事業 (百万円)



中期経営計画 マスタープラン2016

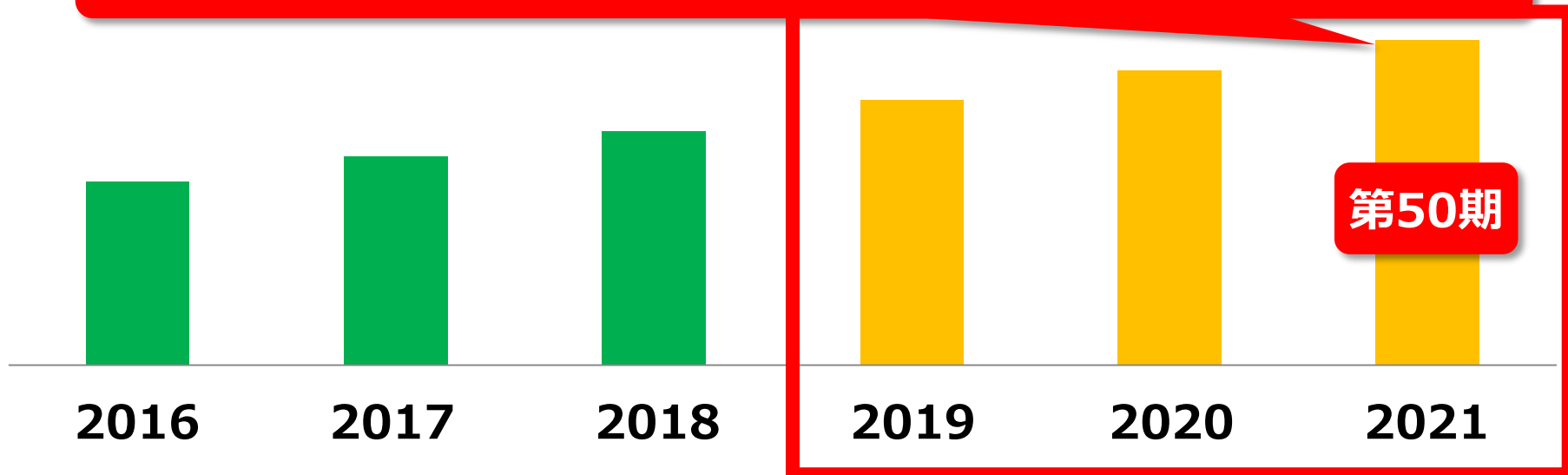
- 第50期となる2021年度を最終年度とする6ヶ年中期計画

マスタープラン2016
2016年度～2021年度

第1フェーズ
2016～2018

第2フェーズ
2019～2021

連結売上高 250億円 連結営業利益 25億円以上



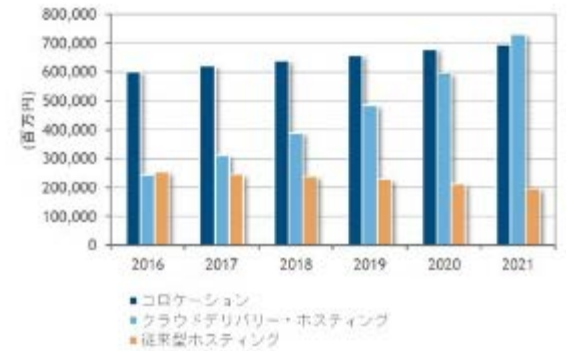
関連市場の見通し（外部環境）

■ 5G関連市場の拡大



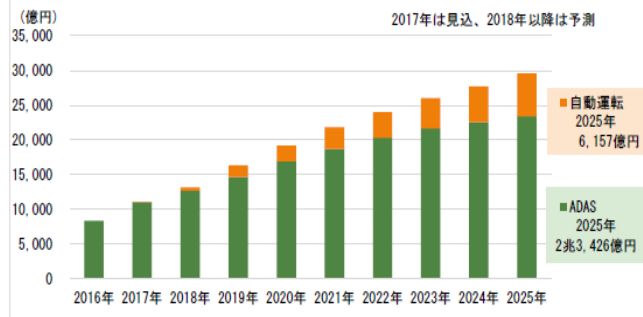
2018 5G／高速大容量通信を実現する
コアテクノロジーの将来展望
(出典：富士キメラ総研)

■ データセンター・クラウドサービスの拡大

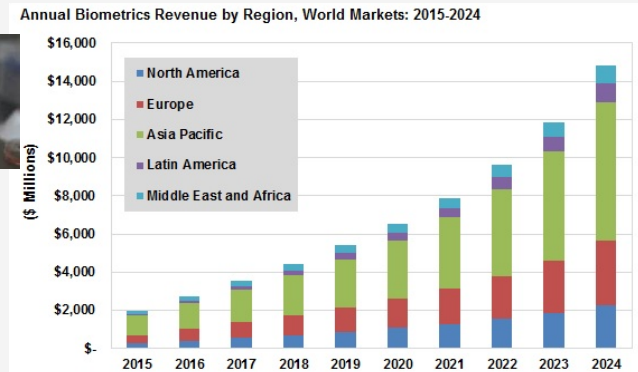


2016～2021年の国内データセンターサービス市場売上額予測（2016年は実績値、2017年以降は予測値、出典：IDC Japan）

■ 自動運転／ADAS市場の拡大



■ バイオ関連市場の拡大



(出典：Tractica)

当社の技術資源（内部環境）

■ 精密加工 ・ 精密成形 ・ 光学技術



- 情報・通信
- 自動車
- 医療・バイオ



第2フェーズの基本戦略

1 既存事業の収益力強化

- 販売力の強化
- 価格競争力の強化
- 新製品・新技術開発の加速

2 事業ポートフォリオの最適化

- 次世代事業の創出
- 不採算事業の合理化

3 経営基盤の強化

- コーポレート機能の強化
- 成長への投資
- 品質管理・特許戦略の強化

1 既存事業の収益力強化

■ 精機事業

精密金型と生産技術を核に、付加価値の高い成形品ビジネスへ

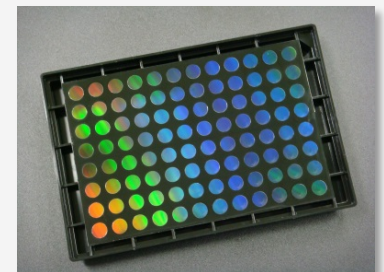
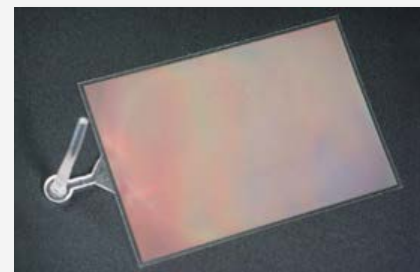
■ 販売力の強化・価格競争力の強化

- ・ 千歳工場の増築
- ・ 既存主要顧客との関係強化
- ・ 生産リードタイムの削減
- ・ アーカイブディスクへの注力
- ・ リピートビジネスの開拓



■ 新製品・新技術開発の加速

- ・ 成形品新規ビジネスの加速
⇒ 自動車関連、医療バイオ関連
- ・ 精密金型技術、薄肉成形技術、
微細転写技術の向上
- ・ 生産自動化（FA）技術の向上



1 既存事業の収益力強化

■ 光製品事業

成長するデータセンターと5G関連市場でシェア拡大を図る

■ 販売力の強化・価格競争力の強化

- データセンター向けコネクタの拡販
- 新型光コネクタ研磨機の拡販
- 4K/8K対応光伝送装置の拡販
- 超小型レンズの拡販

■ 新製品・新技術開発の加速

- 100G、400G大容量高速通信対応光デバイスの量産化
- 光通信用部品の生産自動化装置の開発
- 5G対応の光電界センサー開発



2 事業ポートフォリオの最適化

成長期待事業



レンズ



精密成形品

Growth

成長牽引事業



光通信用部品



情報／通信



医療機器／バイオ



カーエレクトロニクス

次世代事業

Cash

「レンズ」と「精密成形品」を
「成長牽引事業」へ引き上げる
資金を積極的に活用し、
「次世代事業」を創出する

3 経営基盤の強化

■ コーポレート機能の強化 ～ 持続的な成長を支える強固な基盤を確立 ～

- ・ 人財力の強化 ⇒ 事業拡大、グローバル化に対応する人材育成、採用
- ・ IT戦略 ⇒ 業務効率を最大化するシステム投資、情報セキュリティの強化
- ・ 財務戦略 ⇒ リターンを最大化する投資管理、予算実績管理、在庫管理の強化
- ・ コミュニケーション強化 ⇒ 社外広報強化による会社知名度向上
グループ内の連携強化によるシナジー創出
- ・ サステナブル ⇒ グループとしてのガバナンス強化、BCPによる事業継続リスク軽減

■ 成長への投資 ～ 2021年度までに100億円規模の投資枠 ～

- ・ M&Aの強化 ⇒ 新たな技術、新たな商材、新たな商圏の獲得
- ・ R&Dの強化 ⇒ アライアンス、産学連携等の推進による開発加速

■ 品質管理・特許戦略の強化 ～ 信頼される品質と特許による差別化 ～

- ・ グループトータルでの品質レベルの向上 ⇒ 不良ゼロへの取り組み強化
- ・ より積極的な特許戦略 ⇒ “守る”ための特許と“攻める”ための特許の戦略活用

- I. 2019年3月期 連結決算概要
- II. 今後の事業展開
- III. 2020年3月期 連結業績見通し**

2020年3月期 連結業績見通し

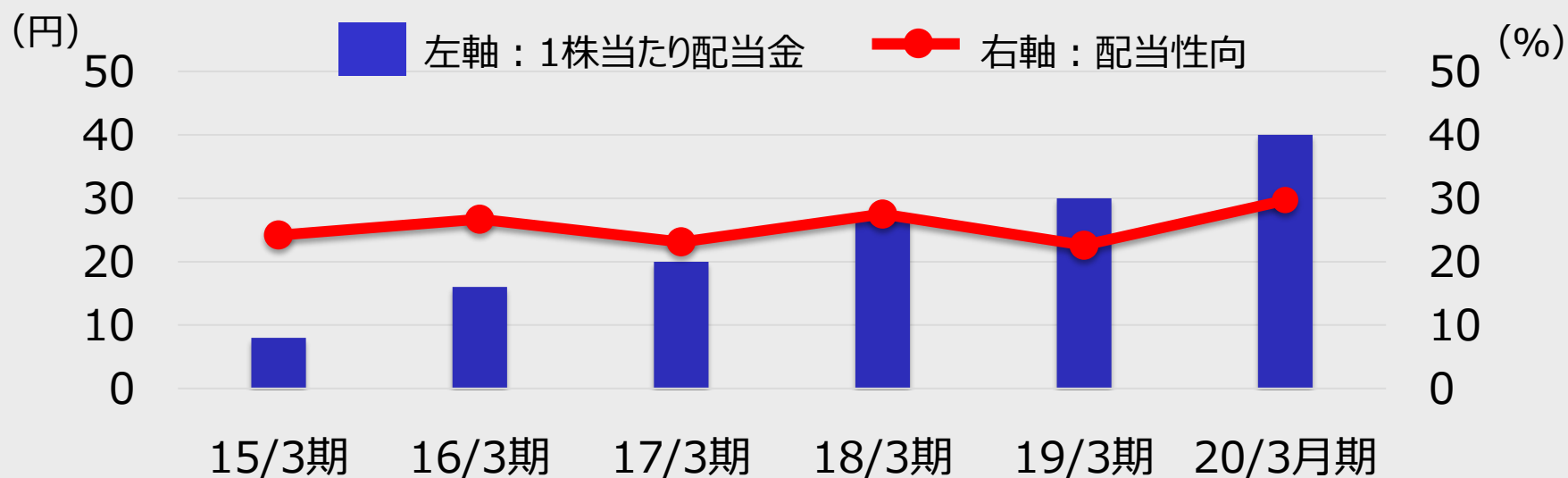
(百万円)	上半期	下半期	20/3月期 見通し	19/3月期 実績
売上高	8,290	8,910	17,200	15,502
営業利益	950	850	1,800	1,619
経常利益	970	880	1,850	1,754
当期純利益	670	580	1,250	1,232
設備投資			2,246	1,238
減価償却費			1,635	1,390
研究開発費			500	450

2020年3月期 連結業績見通し (部門別)

(百万円)	上半期	下半期	20/3月期 見通し	19/3月期 実績
精機関連				
売上高	4,590	4,890	9,480	8,729
営業費用	4,220	4,600	8,820	7,976
営業利益	370	290	660	753
光製品関連				
売上高	3,700	4,020	7,720	6,773
営業費用	3,120	3,460	6,580	5,908
営業利益	580	560	1,140	865

株主還元について

		20/3月期 見通し	19/3月期 実績	18/3月期 実績
当期純利益	百万円	1,250	1,232	914
1株当たり配当金	円	40	30	27
配当性向	%	29.6	22.5	27.3



ご清聴 ありがとうございます。